

【 科目等履修生・学部聴講生 】

※2023年3月8日現在

担当専修別	講義コード	講義科目名	単位	開講期	曜日	時間	曜日2	時間2	担当教員名	使用言語	聴講可否		シラバス連番	備考
											科目等履修生	(学部)聴講生		
科学哲学科学史	8202001	系共通科目(科学哲学)(講義)	2	前期	水	3			伊勢田 哲治	日本語	○	○	基礎現代文化学系1	
科学哲学科学史	8204001	系共通科目(科学哲学)(講義)	2	後期	水	3			伊勢田 哲治	日本語	○	○	基礎現代文化学系2	
科学哲学科学史	8206001	系共通科目(科学史I)(講義)	2	前期	水	2			伊藤 憲二	日本語	○	○	基礎現代文化学系3	
科学哲学科学史	8208001	系共通科目(科学史II)(講義)	2	後期	水	2			伊藤 憲二	日本語	○	○	基礎現代文化学系4	
科学哲学科学史	8231001	科学哲学科学史(特殊講義)	2	前期	月	2			伊藤 憲二	日本語	○	○	基礎現代文化学系5	
科学哲学科学史	8231003	科学哲学科学史(特殊講義)	2	前期	金	2			伊勢田 哲治	英語	○	○	基礎現代文化学系6	
科学哲学科学史	8231004	科学哲学科学史(特殊講義)	2	後期	金	2			伊勢田 哲治	英語	○	○	基礎現代文化学系7	
科学哲学科学史	8231007	科学哲学科学史(特殊講義)	2	前期集中	他	他			平岡 隆二	日本語	○	○	基礎現代文化学系8	
科学哲学科学史	8231008	科学哲学科学史(特殊講義)	2	後期	木	4			清水 雄也	日本語	○	○	基礎現代文化学系9	
科学哲学科学史	8241001	科学哲学科学史(演習)	2	前期	火	3			伊藤 憲二	日本語	○	○	基礎現代文化学系10	
科学哲学科学史	8241002	科学哲学科学史(演習)	2	後期	火	3			伊藤 憲二	日本語	○	○	基礎現代文化学系11	
科学哲学科学史	8241003	科学哲学科学史(演習)	2	前期	金	3			伊勢田 哲治	日本語	○	○	基礎現代文化学系12	
科学哲学科学史	8241004	科学哲学科学史(演習)	2	後期	金	3			伊勢田 哲治	日本語	○	○	基礎現代文化学系13	
科学哲学科学史	8231002	科学哲学科学史(特殊講義)	2	後期	月	2			伊藤 憲二	日本語	○	○	基礎現代文化学系14	
メディア文化学	8931009	メディア文化学(特殊講義)	2	後期	月	4			松永 伸司	日本語	○	○	基礎現代文化学系15	
メディア文化学	8931004	メディア文化学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			森下 達	日本語	○	○	基礎現代文化学系16	
メディア文化学	8902001	系共通科目(メディア文化学)(講義A)	2	前期	月	4			松永 伸司	日本語	○	○	基礎現代文化学系17	
メディア文化学	8904001	系共通科目(メディア文化学)(講義B)	2	後期	金	2			喜多 千草	日本語	○	○	基礎現代文化学系18	
現代史学	8407001	系共通科目(現代史学)(講義I)	2	前期	水	3			小野沢 透	日本語	○	○	基礎現代文化学系19	
現代史学	8408001	系共通科目(現代史学)(講義II)	2	後期	水	3			堀出 浩之	日本語	○	○	基礎現代文化学系20	
現代史学	8433001	現代史学(特殊講義)	2	後期	火	3			小野沢 透	日本語	○	○	基礎現代文化学系21	
現代史学	8433006	現代史学(特殊講義)	2	前期	水	2			高木 博志	日本語	○	○	基礎現代文化学系22	
現代史学	8433007	現代史学(特殊講義)	2	後期	水	2			高木 博志	日本語	○	○	基礎現代文化学系23	
現代史学	8433004	現代史学(特殊講義)	2	前期	水	3			藤原 辰史	日本語	○	○	基礎現代文化学系24	
現代史学	8433005	現代史学(特殊講義)	2	後期	水	3			藤原 辰史	日本語	○	○	基礎現代文化学系25	
現代史学	8433008	現代史学(特殊講義)	2	前期	月	4			村上 衛	日本語	○	○	基礎現代文化学系26	
現代史学	8433009	現代史学(特殊講義)	2	後期	月	4			村上 衛	日本語	○	○	基礎現代文化学系27	
現代史学	8433020	現代史学(特殊講義)	2	前期	金	2			小堀 聡	日本語	○	○	基礎現代文化学系28	
現代史学	8433021	現代史学(特殊講義)	2	後期	金	2			小堀 聡	日本語	○	○	基礎現代文化学系29	
現代史学	8433010	現代史学(特殊講義)	2	後期	月	4			西山 伸	日本語	○	○	基礎現代文化学系30	
現代史学	8433003	現代史学(特殊講義)	2	後期	火	4			藤目 ゆき	日本語	○	○	基礎現代文化学系31	
現代史学	8433024	現代史学(特殊講義)	2	後期	火	1			石川 亮太	日本語	○	○	基礎現代文化学系32	
現代史学	8433025	現代史学(特殊講義)	2	前期	木	2			クナウト・ティル	日本語	○	○	基礎現代文化学系33	
現代史学	8433026	現代史学(特殊講義)	2	後期	木	2			クナウト・ティル	日本語	○	○	基礎現代文化学系34	
基礎現代文化学系	0062001	基礎現代文化学系(ゼミナールI)	2	前期	木	5			松永 伸司, 喜多 千草, 白木 正俊, 鈴木 真奈, TATARCZUK Marcin Adam, 平岡 久代, 福田 耕佑	日本語	×	○	基礎現代文化学系35	

基礎現代文化学系1

科目ナンバリング		U-LET32 28202 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(科学哲学)(講義) Philosophy of Science (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		科学哲学入門(上)									
【授業の概要・目的】											
科学哲学は「哲学」という視点から「科学」に切り込む分野である。本講義では、多様化のすすむ科学哲学のさまざまな研究領域を紹介し、受講者が自分の関心に応じて今後掘り下げていけるような「入り口」を提供する。前期の講義においては、科学とはなにかという問題、科学的推論や科学的説明をめぐる問題を、科学全体に関わるテーマと個別の領域に関わるテーマに分けて論じる。											
【到達目標】											
科学とは何か、科学的推論とは何か、科学的説明は何か、といった問題について、科学哲学の基礎的な概念と考え方を理解し、それを適切に科学の具体的事例に適用できるようになる。											
【授業計画と内容】											
1 科学とは何か (4回) 2 科学的推論 (4回) 3 個別科学における科学的推論(2回) 4 科学的説明 (2回) 5 個別科学における科学的説明 (2回)  フィードバック (1回)											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
2回のレポート(各50%)で評価を行う。評価は到達目標の達成度にもとづいて行う。 1回でもレポートをさぼると不可となるので注意されたい。											
【教科書】											
サミール・オカーシャ 『科学哲学』(岩波書店)											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
受講者は各授業前にテキストの該当箇所を読むことが期待されている。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーは金曜日15:00-16:30。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 基礎現代文化学系2

科目ナンバリング		U-LET32 28204 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(科学哲学)(講義) Philosophy of Science (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		科学哲学入門(下)									
[授業の概要・目的]											
科学哲学は「哲学」という視点から「科学」に切り込む分野である。本講義では、多様化のすすむ科学哲学のさまざまな研究領域を紹介し、受講者が自分の関心に応じて今後掘り下げていけるような「入り口」を提供する。後期の授業では科学的实在論や科学の変化、科学と価値などのテーマを順にとりあげ、関連する個別科学におけるテーマも検討する。											
[到達目標]											
科学における实在の問題とは何か、科学はどのように変化するか、科学と価値の関係はどうなっているか、といった問題について、科学哲学の基礎的な概念と考え方を理解し、それを適切に科学の具体的事例に適用できるようになる。											
[授業計画と内容]											
1 实在論と反实在論(3回) 2 個別科学における实在論問題(3回) 3 科学の変化と科学革命(3回) 4 個別科学における変化の問題(2回) 5 科学と価値(3回)  フィードバック(1回)											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
2回のレポート(各50%)で評価を行う。評価は到達目標の達成度にもとづいて行う。 1回でもレポートをさぼると不可となるので注意されたい。											
[教科書]											
サミール・オカーシャ 『科学哲学』(岩波書店)											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
受講者は各授業前にテキストの該当箇所を読むことが期待されている。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーは金曜日15:00-16:30。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系3

科目ナンバリング		U-LET32 18206 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(科学史I)(講義) History of Science (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊藤 憲二			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		科学史入門1 (名著による科学史研究への招待)									
【授業の概要・目的】											
<p>科学史とはどのような学問だろうか。学問としての科学史は、自然科学をめぐる様々な出来事をたどって年表を作ることで、いわゆる「科学者」の様々なエピソードを集めることでなく、「科学」だけの歴史だけでもない。その一つの野心は、現在「科学」と呼ばれるものがどのように、いかなるものとして立ち現れたかを歴史的に調べることによって、「科学」が何かを明らかにすることである。その学問的内容は多様であり、さまざまな関心の人の中から自分にとって興味のある内容や、アプローチを見出すことができる。この授業では科学史という研究分野を形作ってきた数々の名著のうち、日本語でも読める14の魅力あふれる著作を選んでおおよそ年代順に紹介し、関連する研究について述べる。それを通して科学史の研究における様々なアプローチとその可能性について論じ、科学史という学問の面白さを伝える。授業は講義形式で行い、事前に文献を読むことは要求しない。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通俗的な科学史についての考え方を打破し、科学史という学問の多様性とその中の主要なアプローチを知る。</li> <li>・ 科学史という学問がどのような点で履修者にとって興味深いものとなり得るのかを理解する。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス：科学史の通史なるものの虚構性について</li> <li>2. 科学思想史という方法とその限界：コイレ『コスモスの崩壊』</li> <li>3. 科学者集団の社会学：マートン『社会理論と社会構造』</li> <li>4. パラダイムと科学革命：クーン『科学革命の構造』</li> <li>5. 非西洋学問とニーダム問題：ニーダム『ニーダム・コレクション』</li> <li>6. 権力と規律と知識：フーコー『監獄の誕生』</li> <li>7. 実験装置と政治思想の科学史：シェイピン&amp;シャッフアー『リヴァイアサンと空気ポンプ』</li> <li>8. ジェンダーと科学史：シーピンガー『科学史から消された女性たち』</li> <li>9. 物質文化の科学史：ギャリソン『アインシュタインの時計 ポワンカレの地図』</li> <li>10. 視覚実践と認識論的徳：ダストン&amp;ギャリソン『客観性』</li> <li>11. 知識のグローバルヒストリー：ラジ『近代科学のリロケーション』</li> <li>12. 非知の科学論：オレスケス&amp;コンウェイ『世界を騙しつづける科学者たち』</li> <li>13. サイボーグとアクターネットワーク理論：ミアレ『ホーキングInc』</li> <li>14. まとめ：グローバルに絡み合った環境とマルチスピーシーズ民族誌：チン『マツタケ』</li> <li>15. フィードバック</li> </ol>											
----- 系共通科目(科学史I)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(科学史I)(講義)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

レポート2回(100%)。レポート課題は授業中に告知する。

**【教科書】**

使用しない

**【参考書等】**

(参考書)

古川安 『科学の社会史』(ちくま学芸文庫, 2018) ISBN:978-4480098832 (科学史に関する全般的な背景知識を得るのに推薦。)

その他、授業中に紹介する。

**【授業外学修(予習・復習)等】**

毎回、参考文献を紹介するので、各人の関心と必要に応じて読むこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

科学史Iと科学史IIは独立した科目なので、個別に履修してよい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系4

科目ナンバリング		U-LET32 18208 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(科学史II)(講義) History of Science (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊藤 憲二			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		方法としての日本科学史（重要著作を通じた日本科学史研究入門）									
【授業の概要・目的】											
日本の科学史を通して、科学について何を明らかにできるだろうか。この授業では日本の科学技術に関する歴史研究の重要著作のうち、特に刺激的で興味深いと思われる14の著作を選んでおおよそ年代順に紹介することを通して、日本の科学技術の歴史研究における様々なアプローチを説明し、それが「科学」とは何かを明らかにするのにどのような意義があるのかについて論じる。授業は講義形式で行い、事前に文献を読むことは要求しない。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の科学技術についての歴史研究の様々なアプローチを知る。</li> <li>日本の科学技術についての歴史研究に関して、これまでどのような研究がなされ、今後、どのような研究がありうるのかについて理解する。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>イントロダクション：なぜ日本の科学技術史か？</li> <li>日本の科学思想史：辻哲夫『日本の科学思想』（1973）</li> <li>社会史（科学の体制化論）：広重徹『科学の社会史』（1973）</li> <li>戦後日本における科学の社会史：中山茂『科学と社会の現代史』（1981）</li> <li>科学の文化史：金子務『アインシュタイン・ショック』（1981）</li> <li>大学史：潮木守一『京都帝国大学の挑戦』（1984）</li> <li>初期近代の分岐点：板倉聖宣ほか『日本における科学研究の萌芽と挫折』（1990）</li> <li>国際関係と科学技術：リチャード・サミュエルズ『富国強兵の遺産』（原著1996）</li> <li>政治と科学：吉岡斉『原子力の社会史』（1999, 2011）</li> <li>時間技術と近代：栗山茂久・橋本毅彦編『遅刻の誕生』（2001）</li> <li>科学とイデオロギー：泊次郎『プレートテクトニクスの拒絶と受容』（2008）</li> <li>科学社会学と災害研究：松本三和夫『構造災』（2012）</li> <li>科学とジェンダー：古川安『津田梅子』（2022）</li> <li>まとめと番外編：伊藤憲二『励起：仁科芳雄と日本の現代物理学』ができるまで</li> <li>フィードバック</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
----- 系共通科目(科学史II)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(科学史II)(講義)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

レポート2回(100%)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

毎回、参考文献を紹介するので、各人の関心と必要に応じて読むこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

科学史Iと科学史IIは独立した科目なので、個別に履修してよい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系5

科目ナンバリング		U-LET32 28231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊藤 憲二			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		量子の歴史と思想(1): 19世紀から相補性まで									
【授業の概要・目的】											
量子物理学（量子力学および場の量子論）は、日常的な直観と鋭く対立する物理理論である。これは20世紀の自然科学においてもっとも大きな変革をもたらした科学理論の一つであり、その社会的影響も絶大で、思想的含意も大きい。この物理学はどのように生まれ、どのように受け入れられてきたのだろうか。19世紀から1930年ごろまでの量子物理学を中心とした自然科学の歴史とその背景をたどりつつ、そこで生じた思想的な問題や、科学史研究における議論を紹介する。											
【到達目標】											
1930年ごろまでの量子物理学の発展と、それをめぐる思想的な問題を理解する。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション：量子物理学の興味深さ</li> <li>2. 粒子と場をめぐる19世紀の展開</li> <li>3. 電気工学から電子論へ：電子の「発見」と相対論</li> <li>4. 工業化と新しい物理学：熱力学と熱輻射、とくに天野清について</li> <li>5. 量子論における離散性の導入の問題：プランク、アインシュタインとトーマス・クーンの問題提起</li> <li>6. 化学結合論、エックス線、分光学と原子モデル</li> <li>7. アメリカ科学の勃興とエネルギー保存：コンプトン効果とアインシュタインとボーアの最初の論争から対応原理へ</li> <li>8. ワイマール文化と非因果性：フォーマン・テーゼについて</li> <li>9. 観測可能性と直感性：マッハ主義、相対論と行列力学</li> <li>10. 波動力学と確率解釈：ド＝プロイ、シュレーディンガー、ボルン</li> <li>11. 状態、重ね合わせの原理と変換理論：ディラック、ボルン、ヨルダン</li> <li>12. ハイゼンベルクとボーアの対立から不確定性関係まで</li> <li>13. ボーアの思想：相補性とその応用</li> <li>14. ソルベイ会議におけるアインシュタイン＝ボーア論争、コペンハーゲン解釈と計算文化</li> <li>15. フィードバック</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
小テスト・宿題（50%） レポート1回（50%）											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											



科学哲学科学史(特殊講義)(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

毎回、参考文献を紹介するので、各人の関心と必要に応じて読むこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系6

科目ナンバリング		U-LET32 28231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		社会科学の哲学入門 Introduction to Philosophy of Social Sciences									
【授業の概要・目的】											
The aim of this special lecture is to introduce philosophy of social sciences. Philosophy of social sciences is a relatively minor field in philosophy of science, but it deals with many fascinating topics such as methodology of social sciences, ontology of society, rationality and relativism and so on. Using a recent textbook by Kei Yoshida, we look at some basic issues in this field.											
【到達目標】											
To be able to explain basic issues of the field of philosophy of social sciences. To be able to connect ideas in philosophy of social sciences to various social scientific research.											
【授業計画と内容】											
The lectures will be given in English, and structured according to the textbook (Kei Yoshida, Philosophy of Social Sciences: An Introduction). The textbook is written in Japanese, so a summary of the textbook in English will be provided in the class.											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 What is the point of learning philosophy of social sciences? (1 week)</li> <li>2 How do social sciences try to capture social phenomena? (2 weeks)</li> <li>3 What are the method and aim of social sciences? (3 weeks)</li> <li>4 For what social scientific theories exist? (2 weeks)</li> <li>5 Are social sciences just one perspective among many? (2 weeks)</li> <li>6 What is the relationship between cognition and value in social sciences? (2 weeks)</li> <li>7 What is the relationship between social and natural sciences (2 weeks)</li> <li>8 Wrap up (1 week)</li> </ol>											
【履修要件】											
No background is required, but if you are not familiar with philosophy of science in general, please read some introductory book by yourself. Okasha's introductory book (Philosophy of Science: A Very Short Introduction) is recommended.											
【成績評価の方法・観点】											
The evaluation will be based on two papers (50% each). The papers can be either in Japanese or in English. The points of view of the evaluation are the understanding of the content of the class and appropriate application of the understanding to concrete cases.											
【教科書】											
吉田敬 『社会科学の哲学入門』（勁草書房）											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

---

[参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Participants are expected to read the assigned reading before each class to be able to take part in the class discussion.

(その他(オフィスアワー等))

Office Hour will be on Fridays 15:00-16:30.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系7

科目ナンバリング		U-LET32 28231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		宇宙科学技術社会論 Space science, technology and society									
【授業の概要・目的】											
Science, technology and society (STS) is a flourishing interdisciplinary field that deals with various issues that arises between science and technology on the one hand and society on the other. However, space science and technology have been a relatively minor topic within STS, probably because the social relevance of space science and technology have been unclear. The situation seems to be changing rapidly, with various new developments such as private space exploration. This class tries to explore the possibility of STS study of Space science and technology, i.e. space science, technology and society (SSTS).											
【到達目標】											
To understand what can be the topic of SSTS; to acquire the ability to apply theoretical knowledge in STS to concrete issues in space science and technology.											
【授業計画と内容】											
The lectures will be given in English, and structured according to the textbook (Kureha and Iseda eds, Let Us Discuss Space Activities Together). The textbook is written in Japanese, so a summary of the textbook in English will be provided in the class.											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Why should we discuss space activities together?</li> <li>2 Basic ideas of STS</li> <li>3 History of space exploration: world</li> <li>4 History of space exploration: Japan</li> <li>5 Discussion topic 1: manned moon exploration and romanticism</li> <li>6 Basic ideas of space ethics</li> <li>7 Discussion topic 2: space resource development</li> <li>8 Material significance of space exploration</li> <li>9 Cultural significance of space exploration</li> <li>10 Discussion topic 3: Dual use of space technology</li> <li>11 Issues of science and technology communication</li> <li>12 Science and technology communication of space exploration</li> <li>13 Discussion topic 4: Space debris</li> <li>14 Discussion skills for space exploration</li> <li>15 wrap-up</li> </ol>											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 科学哲学科学史(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

No background is required, but if you are not familiar with philosophy of science in general, please read some introductory book by yourself. Okasha's introductory book (Philosophy of Science: A Very Short Introduction) is recommended.

### 【成績評価の方法・観点】

The evaluation will be based on two papers (50% each). The papers can be either in Japanese or in English. The points of view of the evaluation are the understanding of the content of the class and appropriate application of the understanding to concrete cases.

### 【教科書】

呉羽真、伊勢田哲治編 『宇宙開発をみんなで議論しよう』（名古屋大学出版会）

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

Participants are expected to read the assigned reading before each class to be able to take part in the class discussion.

### （その他（オフィスアワー等））

Office Hour will be on Fridays 15:00-16:30.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系8

科目ナンバリング		U-LET32 28231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 平岡 隆二			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		東西宇宙観の出会いと交流									
[授業の概要・目的]											
江戸時代の日本に伝来した西洋と中国の天文学・宇宙論知識をとりあげ、その理解や利用のあり方を考察することにより、天文学史・宇宙論史・日本文化史・東西交流史についての理解を深める。また、京大が所蔵する関連史料の現地調査に参加し、その整理や取り扱いの方法を学ぶ。											
[到達目標]											
現代とは異なる自然認識とその利用のあり方を、具体的な史料に即して理解する能力を養う。またその特質と意義を、当時の文脈を踏まえつつ俯瞰的に説明する能力を養う。											
[授業計画と内容]											
1．本授業の位置づけ 2・3．近世日本天文学とその史料 4・5．キリシタンと科学伝来 6・7．西学書の渡来と影響 8・9．江戸後期の天文暦学と蘭学 10～14．京大所蔵史料の調査・整理 15．フィードバック											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点(50%)とレポート(50%)。レポートはこの授業に関連する史料や研究にもとづいて作成すること。											
[教科書]											
使用せず、プリントを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 渡辺敏夫『近世日本天文学史 上・下』(恒星社厚生閣、1986-87年) 嘉数次人『天文学者たちの江戸時代：暦・宇宙観の大転換』(ちくま書房、2016年) その他、授業中にも適宜紹介します。											
(関連URL)											
<a href="http://hiraoka.zinbun.kyoto-u.ac.jp/">http://hiraoka.zinbun.kyoto-u.ac.jp/</a>											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業で紹介する参考文献を読み、理解・関心を深めておくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
授業の実施形態(対面・オンライン・現地調査等)について、随時最新情報を確認すること。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系9

科目ナンバリング		U-LET32 28231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		学際融合教育研究推進センター- 特定助教 清水 雄也			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		因果の哲学									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、因果に関する哲学的問題について論じる。特に、現在の科学哲学において標準説（の1つ）となっている介入主義的理論を中心に、因果概念の一般理論、因果関係の存在論的特性、因果言明の優劣比較、因果選別の理論について検討する。因果そのものに対する哲学的関心を持つ者だけでなく、科学・哲学における因果概念の利用や、法的・道徳的な責任と因果の関係に関心を持つ者の受講も歓迎する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>因果概念の一般的特徴づけを目指す諸学説の眼目と問題点について理解する。</li> <li>因果関係の存在論的特性に関する諸問題について理解する。</li> <li>因果言明の優劣比較に関する諸論点について理解する。</li> <li>因果選別に関する理論的問題と諸学説について理解する。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下の計画にしたがって講義を進める。ただし、進捗に応じて多少変更する場合がある。</p> <p>01. イントロダクション</p> <p>I. 因果概念の理論</p> <p>02. 規則性と確率連動</p> <p>03. 可操性と行為者性</p> <p>04. 反事実と可能世界</p> <p>05. モデルと介入主義</p> <p>II. 因果関係の特性</p> <p>06. 水準と開放性</p> <p>07. 仲介と階層性</p> <p>08. 条件と派生性</p> <p>III. 因果言明の優劣</p> <p>09. 安定性</p> <p>10. 均整性</p> <p>11. 特定性</p> <p>IV. 因果選別の理論</p> <p>12. 必要性和十分性</p> <p>13. 規範性と正常性</p> <p>14. 適合性と偶然性</p>											
----- 科学哲学科学史(特殊講義) (2)へ続く -----											

科学哲学科学史(特殊講義) (2)

15. まとめ

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

期末レポートにより評価する。到達目標の達成度（講義内容の理解度）に基づく評価を基本とするが、独自の学習や考察を適切に盛り込んだものには特に高い評価を与える。

**【教科書】**

使用しない

**【参考書等】**

（参考書）  
授業中に紹介する

**【授業外学修（予習・復習）等】**

復習：講義で扱われた問題について自ら考察する。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



基礎現代文化学系10

科目ナンバリング		U-LET32 28241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊藤 憲二			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		学術雑誌の科学史的研究									
【授業の概要・目的】											
学術雑誌は現代の知識生産においてきわめて重要な役割を果たしていると同時に、多くの問題に直面している。その仕組みが歴史的にどのように形成され、現在の形になったのかということは今日における科学史のもっとも重要なテーマの一つである。この演習では学術雑誌に関する英語圏の重要な著作を取り上げ、このテーマの研究状況を概観することを目指す。毎回、論文一本ないし本の章一つ程度の英文を読み、担当者の発表の後に、討論を行う。											
【到達目標】											
科学史およびその周辺分野における学術雑誌に関する主要著作において、これまでどのような題材が扱われ、どのような研究手法が用いられ、どのような問題が提起されてきたのかについて理解する。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.イントロダクションとガイダンス：本セミナーの狙いと担当箇所の分担</li> <li>2.古典的社会学的研究： Harriet Zuckerman and Robert Merton, “ Patterns of Evaluation in Science: Institutionalization, Structure, and Functions of the Referee System, ” <i>Minerva</i> 9 (1971): 66-100.</li> <li>3. <i>Annalen der Physik</i>: ルイス・パイエンソン「相対論における物理的意味：マクス・プランクによる『物理学年報』の編集, 1906年から1918年」板垣良一ほか訳『若きアインシュタイン：相対論の出現』（共立出版, 1985）, pp. 249-276.</li> <li>4.同僚評価のSTS的研究：Daryl E. Chubin and Edward J. Hackett, <i>Peerless Science: Peer Review and U. S. Science Policy</i> (State University of New York Press, 1990)から、Chapter 4.</li> <li>5. <i>Nature</i> (1): Melinda Baldwin, <i>Making “ Nature ” : The History of a Scientific Journal</i> (The University of Chicago Press, 2015) , IntroductionとChaps 1-4から 1章</li> <li>6. <i>Nature</i> (2): Baldwin (2015), Chaps 5-8から 1章と Conclusion.</li> <li>7. <i>Physical Review</i>: Roberto Lalli, “ ‘ Dirty work, ’ but someone has to do it: Howard P. Robertson and the refereeing practices of Physical Review in the 1930s, ” <i>Notes and Records: The Royal Society Journal of the History of Science</i> 70 (2016): 151-174.</li> <li>8. 19世紀英仏の学術雑誌(1)：Alex Csiszar, <i>The Scientific Journal: Authorship and the Politics of Knowledge in the Nineteenth Century</i> (The University of Chicago Press, 2018), IntroductionとChaps 1-3から 1章.</li> <li>9. 19世紀英仏の学術雑誌(2)：Csiszar (2018), Chaps 4-6から 1章とConclusion.</li> <li>10.ロイヤル・ソサイエティ(1): Aileen Fyfe, Noah Moxham, Julie McDougall-Waters, and Camilla Mørk Røstvik, eds., <i>A History of Scientific Journals: Publishing at the Royal Society, 1665-2015</i> (UCL Press, 2022), IntroductionとPart Iから 1章</li> <li>11.ロイヤル・ソサイエティ (2): Fyfe et al. (2022), Part II から 1章</li> <li>12.ロイヤル・ソサイエティ (3): Fyfe et al. (2022), Part IIIから 1章</li> <li>13.ロイヤル・ソサイエティ (4): Fyfe et al. (2022), Part IVから 1章</li> <li>14.ロイヤル・ソサイエティ (5): Fyfe et al. (2022), Part Vから 1章とConclusion</li> <li>15.フィードバック</li> </ol>											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(演習)(2)

**[履修要件]**

特になし

**[成績評価の方法・観点]**

平常点（授業参加・担当箇所の発表）（50%）  
レポート1回（50%）

**[教科書]**

授業で使用するテキストは、担当教員が用意して配布する。

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

参加者は指定したテキストを事前に読んで討論できるようにすること。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系11

科目ナンバリング		U-LET32 28241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊藤 憲二			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		科学史研究法：理論と実践									
【授業の概要・目的】											
科学史の研究にはよく用いられる理論的な枠組みや、実際の研究を進めていく上で、役に立つノウハウや、様々な道具が存在する。この演習では、卒業論文、修士論文、博士論文などで、科学史およびその周辺分野の研究をこれからしようとする人を対象に、科学史分野で用いる理論的枠組みを考えるのに有益な論文を読みつつ、研究や研究者としての活動を実際に遂行するにあたって有用なリソースやノウハウを紹介し、実際の研究の一部を演習する。											
【到達目標】											
科学史の理論的枠組みの一部を習得し、同時に研究を行うスキルの基礎的なものを身につけること。											
【授業計画と内容】											
この授業は各回の授業は理論パートと演習パートからなるが、授業の6回目と14回目は各自の提出物に基づいたワークショップ形式で行う。 理論パート：Biagioli ed., Science Studies Readerから論文をピックアップして演習 実践パート：研究上のリソースやノウハウを紹介し、時には実演する。 ワークショップ：研究に関する実際の作業に基づき、合評をする。											
1.ガイダンス、概要説明、分担決定、科学史研究によく使うツール											
2.理論：研究者集団の科学史的分析: Kohler, “Moral Economy” 実践：テーマ設定と研究設計、研究計画書 レポート課題1発表											
3.理論：精度の社会構築: MacKenzie, “Nuclear Missile Testing” 実践：先行研究と一次資料の文献調査法：科学史関係のデータベース、図書館、その他											
4.理論：社会構築主義を超えて: Pickering, “The Mangle of Practice” 実践：文献の入手と整理の実践（書籍、論文、その他、図書館と書店の利用法）											
5.理論：「パラダイム論」を超えて: Galison, “Trading Zone” 実践：リーディングとノートテイキングの技法 課題1レポート提出期限											
6.研究計画書ワークショップ											
7.理論：標準の科学論: Schaffer, “Late Victorian Metrology” 実践：書評と査読 レポート課題2発表											
8.理論：実験の科学史: Shapin, “House of Experiment” 実践：アーカイブズ調査/資料撮影とその整理											
9.理論：実験室とANT: Latour, “Give Me a Laboratory” 実践：新聞データベースの利用											
10.理論：バウンダリー・オブジェクト: Star and Griesemer, “Institutional Ecology”											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

## 科学哲学科学史(演習)(2)

実践：学会発表とスライド

11.理論：非西洋科学: Hart, “ On the Problem of Chinese Science ”

実践：ライティングの技法とバックアップ

12.理論：ジェンダーと科学表象: Martin, “ Toward an Anthropology of Immunology ”

実践：スタイルと論文投稿と改稿

13.理論：フェミニスト科学論: Barad, “ Agential Realism ”

実践：科学史における研究倫理

レポート課題2 提出期限

14.書評/査読報告ワークショップ

15.フィードバック

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（授業参加）（50%）

レポート2回（50%）

### 【教科書】

授業で使用するテキストは、担当教員が用意して配布する。

### 【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

参加者は指定したテキストを事前に読んで討論できるようにすること。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系12

科目ナンバリング		U-LET32 28241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		数学の存在論									
【授業の概要・目的】											
<p>数や数式などの数学的対象は実在するだろうか、また実在するとしたらどのような形で存在するのだろうか。これは古くから認識されてきた問題でありながら、いまだに満足のいく解答が存在しない。この授業では、数学の哲学に関するハンドブックを利用して、自然主義、唯名論、構造主義など数学の存在論についての主要な立場について理解を深める。</p>											
【到達目標】											
<p>数学の存在論に関する主要な考え方を理解し、批判的に検討できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下のテキストの存在論に関するいくつかの章を輪読形式で読み、内容についてディスカッションを行う。 Shapiro Stewart ed. (2005) The Oxford Handbook of Philosophy of Mathematics and Logic. Oxford University Press.</p> <p>基本的に一回の授業でテキスト10ページ程度を読み、それについてディスカッションする形ですすめる。学生は一人ないし複数で一回の発表を担当する（担当者は事前に決めておく）。</p> <p>授業の進行は以下のとおり。</p> <p>イントロダクション(1回) 学生による発表担当              Resnik "Quine and the web of belief" (3回)              Maddy "Three forms of naturalism" (2回)              Weir "Naturalism reconsidered" (2回)              Chihara "Nominalism" (3回)              Hellman "Structuralism" (3回)          まとめ(1回)</p>											
【履修要件】											
<p>特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>発表の担当と期末のレポートを各50%で評価する。 発表については担当した箇所を正しく理解し、適切に紹介できているか、レポートについては、レ</p>											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(演習)(2)

ポートのテーマとして選んだ箇所を理解し、適切に批判的な検討を行えているかどうかの評価基準になる。

[教科書]

「授業計画と内容」で挙げた著作から使用する部分を授業内で配布

[参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参加者全員が事前に授業で扱う箇所のリーディングに事前に目を通す。担当者は担当箇所の内容をまとめたA4数ページ程度の資料を事前に準備する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系13

科目ナンバリング		U-LET32 28241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		実験哲学とは何か									
【授業の概要・目的】											
<p>実験哲学は、これまでの哲学において特にデータをとることなく主張されてきた事柄について、質問票などに基づく心理学や認知科学の手法を用いて実験的にアプローチしようという近年の潮流を指す。こうした方法論の有効性や適用範囲は哲学者たち自身の論争の対象となってきた。この授業では、実験哲学をめぐる原理的なテーマについての論争と具体例についてのレビューを読むことで実験哲学についてどういうことが問題となるのかをとともに考察していく。</p>											
【到達目標】											
<p>実験哲学について何が問題になっているかを理解し、哲学者たちの立場を批判的に検討できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下のアンソロジーからいくつかの論文を輪読形式で読み、内容についてディスカッションを行う。</p> <p>Sytsma, J. and Buckwalter, W. eds. (2016) A Companion to Experimental Philosophy. Blackwell.          具体的には以下の論文を候補として考えている          Stich and Tobia "Experimental philosophy and the philosophical tradition"          Williamson "Philosophical criticisms of experimental philosophy"          Knobe "Experimental philosophy is cognitive science"          Chan, Deutsch and Nichols "Free will and experimental philosophy"          Sarkissan "Aspects of folk morality: objectivism and relativism"          Pinillos "Experiments on contextualism and interest relative invariantism"          Machery "Experimental philosophy of science"</p> <p>基本的に一回の授業でテキスト7~8ページ程度を読み、それについてディスカッションする形ですめる。学生は一人ないし複数で一回の発表を担当する（担当者は事前に決めておく）。</p> <p>授業の進行は以下のとおり。</p> <p>イントロダクション(1回)          学生による発表担当(13回)          まとめ(1回)</p>											
【履修要件】											
<p>特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。</p>											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

## 科学哲学科学史(演習)(2)

---

### [成績評価の方法・観点]

発表の担当と期末のレポートを各50%で評価する。  
発表については担当した箇所を正しく理解し、適切に紹介できているか、レポートについては、レポートのテーマとして選んだ箇所を理解し、適切に批判的な検討を行えているかどうか評価基準になる。

### [教科書]

「授業計画と内容」で挙げた書籍から使用する部分を授業内で配布。

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

参加者全員が事前に授業で扱う箇所のリーディングに事前に目を通す。担当者は担当箇所の内容をまとめたA4数ページ程度の資料を事前に準備する。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



基礎現代文化学系14

科目ナンバリング		U-LET32 28231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊藤 憲二			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		量子の歴史と思想(2)：場の量子論、量子もつれと量子をめぐる思想・哲学									
【授業の概要・目的】											
前期開講科目「量子の歴史と思想(1)」を引き継ぎ、この講義の前半では場の量子論と繰り込み理論までの発展を扱う。後半では量子もつれをめぐる議論や、量子力学の解釈をめぐる議論を歴史的にたどり、最後に20世紀初めから現在に至る量子論に係わる哲学的な議論のいくつかを紹介する。											
【到達目標】											
量子力学に特徴的な概念や現象、量子力学をめぐる哲学的な議論の歴史的な発展を理解する。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに：量子力学の歴史記述の問題について</li> <li>2. 統計性：ボース粒子とフェルミ粒子</li> <li>3. スピン概念にいたる歴史</li> <li>4. 相対論的電子論の発展：ディラックと仁科芳雄</li> <li>5. 交換力の歴史：ハイゼンベルク、ハイトラーとロンドン</li> <li>6. 原子核理論：ハイゼンベルク、湯川秀樹、ミュー中間子の発見</li> <li>7. 場の量子化とその思想</li> <li>8. 繰り込み理論と朝永振一郎</li> <li>9. 統計力学と物性理論の展開</li> <li>10. 物理的実在と量子力学の完全性：アインシュタインらの議論とボーアの反論</li> <li>11. 量子もつれ：ベルの不等式とその実験的検証</li> <li>12. 量子力学と熱力学と時間：ベルクソン、渡邊慧、プロゴジン</li> <li>13. 量子力学と京都学派：田辺元と西田幾多郎と相補性</li> <li>14. 量子力学とフェミニズム：相補性からカレン・バラッドの哲学へ</li> <li>15. フィードバック</li> </ol>											
【履修要件】											
前期開講科目「量子の歴史と思想」(1)を履修しているか、同程度の理解を持っていること											
【成績評価の方法・観点】											
小テスト・宿題(50%) レポート1回(50%)											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(特殊講義) (2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

毎回、参考文献を紹介するので、各人の関心と必要に応じて読むこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系15

科目ナンバリング		U-LET37 38931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 松永 伸司			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「ダサイ」の美学									
【授業の概要・目的】											
<p>美的判断は、伝統的に狭義の美学（芸術哲学を除く、「美的なもの（the aesthetic）」についての哲学）の中心にあるトピックである。「美的判断とは何か」という問いにごく大雑把に答えるなら、「趣味（美的センス）という独特の能力を行使する必要がある判断である」と言ってもいいかもしれない。</p> <p>美的判断は基本的にはモノ（物体や出来事）に対する判断だが、美的センスの行使が必要であるという前提があることで、場合によっては、そのモノを選んだ人の能力に対する評価（たとえば「センスが良い／悪い」といった評価）を含意することがある。「...はおしゃれだ」や「...はダサイ」といった美的判断は、そのような能力についての暗黙のコメントを含むことが多い美的判断の典型だろう。</p> <p>この講義では、とくに「...はダサイ」という否定的な美的判断を取り上げ、それが人の美的センスの評価に結びつくことがよくあるという側面に注目しながら、その美的判断としての独特さとそれをめぐる諸問題（倫理的な問題も含む）について考えたい。</p> <p>授業の目的は、「何がダサイのか／ダサくないのか」を確定させることにあるわけでもなければ、「ダサくならないためにはどうすればよいか」という実践的な処方を提供することにあるわけでもない。また「...はダサイ」という美的判断が倫理的にアウトである／セーフであるというジャッジを下すことにあるわけでもない。</p> <p>むしろ授業の目的は、「...はダサイ」という美的判断の理由づけの構造（とその多様さ）を検討し、それを通してその種の判断を相対化できるようになる（そこから多少の距離を取れるようになる）ことにある。</p> <p>テーマ上、この講義はオフエンシブな内容を含みうる。下記の「授業計画と内容」の下部にある【注意点】をよく読んだ上で受講すること。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・狭義の美学の基本概念について初歩的な理解を得る。</li> <li>・素朴な美的相対主義や素朴な美的独断論のまどろみから抜け出す。</li> <li>・「...はダサイ」という判断についての反省を深める。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンスと注意点</p> <p>第2回 「ダサイ」とされるものの事例と問題の設定</p> <p>第3回 美学の基本 : 美的判断・美的概念・美的性質</p> <p>第4回 美学の基本 : 美的相対主義 (de gustibus non est disputandum) と趣味の良し悪し</p>											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## メディア文化学(特殊講義)(2)

- 第5回 「いき」と「野暮」についての古典的議論
- 第6回 ルッキズムと能力主義
- 第7回 スノップと美的な悪徳
- 第8～14回 各論者による「ダサイもの」の具体例とその理由づけ
- 第15回 フィードバック

前半は、授業全体の大まかな問題設定を確認したあと、議論の前提として美学（狭義）の基本的な考え方を示したうえで、いくつかの先行議論を紹介する。

後半は、各回ごとにゲスト講師を呼び、「ダサイもの」の具体例とそれをなぜ「ダサイ」と判断するのかについての理由をプレゼンしてもらう予定。一方向のレクチャーというよりも、受講者からのリアルタイムの反応をもとにしつつ、担当教員とゲストのやりとりで議論を深めることを考えている。

以上はあくまで予定であり、各回の内容や順序は変更される可能性がある。

### 【注意点】

・この授業では、個々のモノについて「ダサイ/ダサくない」の判定を下すことはないが、必然的に、個々のモノについて「ダサイ」と言われている（あるいは言われがちである）という事実を紹介することになる。また、扱い方に十分注意はするが、場合によっては揶揄に見えるような言説を取り上げることもありえる。それらの点で、そのモノを好んでいる人にとって（あるいはそうでない人にとっても）オフエンシブに感じるものが少なからずあるかもしれない。あらかじめ十分にご了承ください。

・「おしゃれだ」や「ダサイ」といった美的概念は、ファッション（装い）に対してもしばしば使われるが、ファッションに対する美的判断は場合によっては人の身体への評価を暗に含みうるため、その他の対象に対する判断よりも倫理的な懸念が大きい。この授業では、ファッションに対する美的判断をできるだけ具体例から除外する予定だが、部分的にそうした例も言及される可能性がある。あらかじめ十分にご了承ください。

・この授業は、内容・形式ともに実験的な側面がある。とくに「ダサイ」という美的概念については担当教員自身も十分に整理できていないわけではないため、授業がグダグダになる可能性が少なからずある。少なくとも、何か明確に確立した知識や研究を「勉強する」というタイプの授業ではない。あらかじめご了承ください。

・リアクションペーパーとそれへの応答は授業の最重要の部分として考えており、前回授業のリアクションペーパーの紹介とそれへの返答に少なからず授業時間を使うことになる。

### 【履修要件】

履修希望者多数の場合、教室の収容人数に従って人数制限をする可能性がある。人数制限をする場合は文学部の学部2～4回生を優先するが、場合によっては抽選を行う。

### 【成績評価の方法・観点】

平常点：50%  
期末レポート：50%

メディア文化学(特殊講義)(3)へ続く

### メディア文化学(特殊講義)(3)

・平常点は、毎回授業後に求めるリアクションペーパーの提出とその内容によってカウントする。リアクションペーパーによるやりとりも授業の重要なパートとして考えるので、疑問や気になることがあれば積極的に書いてください。

・期末レポートは、「自分が「ダサい」と判断するものの具体例を挙げ、その判断の理由について、授業内で示された考え方と関係づけながら説明しなさい(字数自由)」のような課題になる予定。

#### [教科書]

使用しない

#### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

#### [授業外学修(予習・復習)等]

参考文献はできるだけ示すので、関心のあるトピックは自分で文献を読んで学習してください。

#### (その他(オフィスアワー等))

わからないことなどがあれば気軽に質問してください。いろいろ聞いてもらえたほうが授業をする側としてはありがたいです。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系16

科目ナンバリング		U-LET37 38931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		創価大学文学部 講師 森下 達			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		初期手塚治虫作品を論じる 「物語」と「表現」の絡み合いを軸に									
【授業の概要・目的】											
戦後日本のマンガは、表現様式の点で戦前・戦中期のそれを大きく更新し、さまざまな物語を描きうる表現領域として確立していった。本授業では、戦後日本を代表するマンガ家・手塚治虫の1940年代後半から50年代の作品を精読することを通じて、作品を支える表現様式がどのように変容しているのかを確認し、さらに、その変容が物語内容の変化といかに関係しているのかを分析していく。分析にあたっては、児童文学や近代文学、映画といった既存の物語メディアから、マンガが何を取りこんでいったのかにも焦点をあてる。このような作業を通じて、マンガ表現自体を問題にする方法論を身につけるとともに、他の表現メディアとの比較など柔軟な姿勢と視野の広さを獲得することが本授業の目的である。											
【到達目標】											
前近代の文化や、近代以降の文学およびヴィジュアル文化などとも対比する形で、自分なりの視点で現代のマンガ文化を論じられるようになることが本授業の到達目標である。近代の物語文化に対する理解を深めるとともに、物語と表現の関係に目を向ける力を獲得することは、マンガだけでなくほかのさまざまな表現文化を論じる際にも効力を発揮するだろう。											
【授業計画と内容】											
第1回 ガイダンス：手塚治虫を論じる視点											
第2回 手塚治虫 『地底国の怪人』(1)：何が新しかったのか											
第3回 手塚治虫 『地底国の怪人』(2)：戦前・戦中期の作品と比較して											
第4回 手塚治虫 『地底国の怪人』(3)：物語の構造を考える											
第5回 手塚治虫 『メトロポリス』(1)：主題の深化											
第6回 手塚治虫 『メトロポリス』(2)：表現様式の安定											
第7回 手塚治虫 『メトロポリス』(3)：その後の作品との関係											
第8回 手塚治虫 『38度線上の怪物』(1)：リメイクを論じるには											
第9回 手塚治虫 『38度線上の怪物』(2)：他の表現メディアの影響											
第10回 手塚治虫 『38度線上の怪物』(3)：マンガでドラマを描くということ											
第11回 手塚治虫 『罪と罰』(1)：「映画」的手法を考える											
第12回 手塚治虫 『罪と罰』(2)：モンタージュと「内面」表現											
第13回 手塚治虫 『罪と罰』(3)：原作との変更点について											
第14回 ボーナストラック：つげ義春「ある一夜」を手塚作品と比較する											
第15回 まとめ：マンガにおける「物語」と「表現」 受講生の興味関心に応じ、授業内容を多少変更する場合がある。											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## メディア文化学(特殊講義)(2)

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点]

レポート(60%。授業の視点を踏まえて、自分なりにマンガ作品を論じるもの。問いを提示し、適切な根拠を揃えてそれに答えを出すことを求める)、毎回の授業への参加(40%。授業内容を理解し、積極的に発言できているかどうかをもとに判断する)をもとに評価します。

### [教科書]

レジュメを作成、配布します。

また、版は問いませんが、授業で扱うマンガは読了した上で授業に臨んでもらいたいと考えています。取り扱う作品は以下のとおり。

- ・手塚治虫『地底国の怪人』(1948年)
- ・手塚治虫『メトロポリス』(1949年)
- ・手塚治虫『38度線上の怪物』(1953年)
- ・手塚治虫『罪と罰』(1953年)
- ・つげ義春「ある一夜」(1958年)

なお、手塚作品に関しては講談社の「手塚治虫文庫全集」が、つげ作品に関しては筑摩書房の「つげ義春コレクション」(「ある一夜」は『四つの犯罪/七つの墓場』所収)か「つげ義春大全」(「ある一夜」は『第4巻 ゆうれい船長/不思議な手紙』所収)が入手しやすいです。

### [参考書等]

(参考書)

森下達『ストーリー・マンガとはなにか 手塚治虫と戦後マンガの「物語」』(青土社、2021年) ISBN:978-4-7917-7416-6(授業内容のもととなる書籍です。)

### [授業外学修(予習・復習)等]

予習: 配布されたプリントやテキストなどについて、授業で指示されたぶんをきちんと読んでくること。わからない箇所等についてはそのままにせず、自身で調べて授業に臨む。内容についても、漫然と読むのではなく、自分がどう読んだのかをきちんと言葉にする準備をしておくこと。(60分)

復習: 授業での学びを踏まえて、扱った作品を今一度読み直し、自身の読みを深めること。(30分)

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系17

科目ナンバリング		U-LET37 18902 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(メディア文化学)(講義A) Media and Culture Studies (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 松永 伸司			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		メディア文化学研究入門(前期)									
【授業の概要・目的】											
<p>この講義では、現代のメディアやコンテンツ、あるいはそれらを取り巻く諸現象を研究対象とした場合に陥りやすい諸問題を取り上げつつ、メディア文化を理論的なアプローチで研究する方法について考える。</p> <p>この講義で紹介する考え方は、現代のメディア文化(たとえばポピュラーカルチャーやインターネットカルチャー)の研究を主に想定したものだが、文化研究全般に通用する考え方でもある。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・おそらく誰もが初手ではまる思考上の落とし穴について十分注意できるようになる。</li> <li>・現代のカルチャーを研究するのは確立した分野の作法にしたがって研究するのよりもはるかにハードルが高い(自分でいろいろ勉強し、考え、判断すべきことが多い)ことを十分理解する。</li> <li>・既存の分野での知見を活かすことの重要性を理解する。</li> <li>・一般に理論とはだいたいどんなものかをなんとなく理解する。</li> <li>・個々の理論の内容についてなんとなく理解する。</li> <li>・理論の使い道と使い方についてなんとなく理解する。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>前半は文化研究における理論(一定の体系化されたものの捉え方)の例とその具体的な使い方をいくつか学びつつ、理論を導入することの利点や必要性を理解する。</p> <p>後半は文化を論じる際に陥りやすい思考上の落とし穴について学ぶ。</p>											
<p>第1回 ガイダンス：現代文化の研究は難しい</p> <p>第2回 理論ってなんだ</p> <p>第3回 何にでも使える芸術理論：表象と表出</p> <p>第4回 「感じ」「～系」を語るための理論</p> <p>第5回 物語を論じるための理論</p> <p>第6回 ゲームを論じるための理論</p> <p>第7回 キャラクターを論じるための理論</p> <p>第8回 べき論の落とし穴：規範的と記述的</p> <p>第9回 定義論の落とし穴：言葉と概念</p> <p>第10回 ジャンル論の落とし穴：ジャンルの同一性と変化</p> <p>第11回 文化史記述の落とし穴：歴史は構築される</p> <p>第12回 社会反映論の落とし穴：そんなに簡単に社会は反映されない</p> <p>第13回 作品論の落とし穴：解釈の正当化の戦略</p> <p>第14回 文化とジェンダー：自分の政治的立場を省みる</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
-----系共通科目(メディア文化学)(講義A)(2)へ続く-----											



系共通科目(メディア文化学)(講義A)(2)

授業の進み具合によって各回の順番や内容が変わる可能性がある。

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

平常点：30%

期末レポート：70%

・平常点は、毎回授業後に求めるリアクションペーパーの提出とその内容によってカウントする。リアクションペーパーによるやりとりも授業の重要なパートとして考えるので、疑問や気になることがあれば積極的に書いてください。

・期末レポートは、各回の授業のポイントについて十分に理解できているかを問う記述式テストに近い形式を予定している。Googleフォームによる出題と回答になる予定。

**【教科書】**

使用しない

**【参考書等】**

(参考書)

授業中に紹介する

**【授業外学修(予習・復習)等】**

自分が日ごろ接しているカルチャーを反省的に眺めることを意識しながら過ごすことをおすすめします。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系18

科目ナンバリング		U-LET37 18904 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(メディア文化学)(講義B) Media and Culture Studies (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 喜多 千草			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		メディア文化学研究入門(後期)									
【授業の概要・目的】											
<p>「メディアを用いる生活様式と、その共有のあり方」がメディア文化であるとするれば、その研究対象は、メディアを介して受容されるコンテンツの内容のみならず、その基盤技術のありようや受容のありようも含まれることになる。</p> <p>本講義では、この分野を代表するいくつかの研究領域を採り上げ、その研究方法論について学ぶ。</p>											
【到達目標】											
<p>メディア文化を研究対象として捉えて分析を行うためのさまざまな方法論にふれることによって、自分が研究しようとする対象に適切な研究方法を選ぶ力をつける。</p> <p>またいずれの領域でも重要になってくる歴史学的な視点を身につけることによって、それらを通して現代の社会問題を考える力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>メディア文化学とは(2回)            アニメに関わる研究領域とその方法論(2回)            広告に関わる研究領域とその方法論(2回)            インターネット文化に関わる研究領域とその方法論(2回)            ゲームに関わる研究領域とその方法論(2回)            写真に関わる研究領域とその方法論(2回)            スポーツに関わる研究領域とその方法論(2回)            フィードバック(1回)</p> <p>(ただし、受講生の興味関心に合わせて取り上げる領域を調整する可能性がある。)</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価(PandAを通じての予習・復習課題40%、小レポートの内容60%)											
-----系共通科目(メディア文化学)(講義B)(2)へ続く-----											

系共通科目(メディア文化学)(講義B)(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業で紹介する研究書ならびにWebサイトを、授業後に閲読すること。

**(その他(オフィスアワー等))**

PandAおよびPandAからリンクした授業用Webサイトなどで、スケジュールやWebリソースの紹介および課題の提示を行うので、こまめにチェックすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系19

科目ナンバリング		U-LET35 28407 LJ38									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(現代史学)(講義I) Contemporary History (Lectures I)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小野沢 透			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		現代史学概論									
【授業の概要・目的】											
<p>「現代」の起点は、第一次世界大戦に求められることが多い。このような見方は、今日でもひとつの有力な視点である。しかし、それが提起されたのは、20世紀半ばから後半にかけてのことである。21世紀の今日の視点から見直すとき、「現代」という時代の枠組みにも再考の余地があるかもしれない。</p> <p>このような問題意識に立ちつつ、19世紀以来の「世界史」の展開を21世紀に至るまで概観する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「近代」～「現代」の世界史の展開について、基本的な史実とその歴史的な位置づけを理解する。</li> <li>・時期区分の問題を含め、歴史的な思考とはどのようなものか、具体的史実に即して理解する。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
以下のテーマを扱う予定。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 序論：「現代」はどのような時代と捉えられてきたのか？</li> <li>2. 近現代世界史という視点</li> <li>3. 長い19世紀 二重革命と「近代」の始まり</li> <li>4. 長い19世紀 資本の時代</li> <li>5. 長い19世紀 帝国の時代</li> <li>6. 短い20世紀 第一次世界大戦とロシア革命</li> <li>7. 短い20世紀 大恐慌と第二次世界大戦</li> <li>8. 短い20世紀 冷戦と人類史の「黄金時代」</li> <li>8. 短い20世紀 社会主義圏と第三世界</li> <li>10. 短い20世紀 「黄金時代」の終焉</li> <li>11. 短い20世紀 社会主義圏の終焉</li> <li>12. 21世紀 ワシントン・コンセンサスの時代</li> <li>13. 21世紀 「対テロ戦争」の時代</li> <li>14. アメリカ外交史から見た現代史</li> <li>15. まとめ、フィードバック</li> </ol>											
【履修要件】											
現代史学専修に所属する学生は、卒業までに現代史学講義I,IIをそれぞれ履修し、計4単位を取得する必要がある。Iを2回、またはIIを2回履修して4単位とすることはできないので注意すること。											
----- 系共通科目(現代史学)(講義I) (2)へ続く -----											

系共通科目(現代史学)(講義I) (2)

**[成績評価の方法・観点]**

学期末試験

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

講義の中で紹介した文献など、各自で関連書籍を読むこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系20

科目ナンバリング		U-LET35 28408 LJ38									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(現代史学)(講義II) Contemporary History (Lectures II)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 塩出 浩之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		東アジアのなかの日本近現代史									
【授業の概要・目的】											
日本近現代史について、主として政治外交史を通史的に論じながら、近代性、世界システム、ナショナリズム、植民地主義、ヒトの移動、歴史認識など、日本近現代史を世界史、特に東アジア史の一部として理解するための視点や論点を提示する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の近現代史、特に政治外交史に関する基本的な論点について、具体的な根拠に基づいて論じられるようになる。</li> <li>・世界史、特に東アジア史の一部としての日本近現代史を理解することで、通念的なナショナル・ヒストリーを相対化する視点を獲得する。</li> <li>・歴史学とは単なる知識の修得とは異なり、過去の世界に対する絶えざる「問い」であることを理解し、これまでの知見を踏まえて自ら発問できるようになる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
以下に予定した各回の項目は、状況に応じて微調整することがある。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 世界市場と東アジア</li> <li>3 明治維新</li> <li>4 主権国家体制と東アジア</li> <li>5 立憲政治の形成</li> <li>6 資本主義経済と労働社会</li> <li>7 社会運動と民族運動</li> <li>8 帝国日本と人の移動</li> <li>9 中国侵略から対米開戦へ</li> <li>10 総力戦と社会</li> <li>11 敗戦と占領</li> <li>12 東アジアの分断と日米安保体制</li> <li>13 高度経済成長と沖縄復帰</li> <li>14 東アジアの戦後処理と歴史和解</li> <li>15 まとめとフィードバック</li> </ol>											
【履修要件】											
現代史学専修に所属する学生は、卒業までに現代史学講義I,IIをそれぞれ履修し、計4単位を取得する必要がある。Iを2回、またはIIを2回履修して4単位とすることはできないので注意すること。											
----- 系共通科目(現代史学)(講義II)(2)へ続く -----											

系共通科目(現代史学)(講義II)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

期末試験によって評価する。

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

講義で紹介する参考文献を、各自でできる限り読むこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系21

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小野沢 透			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		米・中東関係の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>以前に比べると米・中東関係に関する関心は低下しているが、それが依然として現代の国際関係における重要なファクターであることは言うまでもない。また、米国の中東への関与はいままさにひとつの転換点に差しかかっているとされるが、米・中東関係の歴史については（当事国である米国においてさえ）正確に把握されているとは言い難い。この授業は特殊講義であるが、やや概説的に、19世紀から21世紀にかけての米国と中東の関係を概観する。</p>											
【到達目標】											
<p>米・中東関係の歴史的展開について、全体的な見通しを把握するとともに、重要な事件や転換点についての具体的な知識を獲得する。</p> <p>また、中東は近現代世界史の展開においては「周辺」地域のひとつであった。米・中東関係の展開についての知識を獲得することを通じて、近現代世界における「周辺」と「中核」の関係についての認識、およびそれを歴史学的に分析するためのアプローチを涵養する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の各項目について、それぞれ2～4回程度の授業で説明を進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション（1回）</li> <li>2. 中東の近代：Western impactから主権国家システムの生成（2回）</li> <li>3. 西側統合政策の展開と挫折（1950年代）（4回）</li> <li>4. オフショア・バランスの時代（1960-80年代）（3回）</li> <li>5. 覇権的政策の盛衰（1990年代以降）（4回）</li> <li>6. まとめとフィードバック（1回）</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポート											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											



現代史学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)

小野沢 透 『幻の同盟：冷戦初期アメリカの中東政策（上・下巻）』（名古屋大学出版会）  
五十嵐武士 『アメリカ外交と21世紀の世界』（昭和堂）

**[授業外学修（予習・復習）等]**

参考書も含め、授業中に適宜指示する。

**(その他（オフィスアワー等）)**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系22

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 高木 博志			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「京都らしさ」の近代と遊廓・花街									
【授業の概要・目的】											
<p>近代京都のイメージとして、貴族文化・国風文化、町衆・桃山文化とともに、現代では「もてなし」の文化が流布する。平安朝の貴族文化が日清・日露戦争期に、織豊・桃山・寛永文化が大正期の「帝国」の時代に顕彰されることには歴史的背景があった。また大正期に南蛮憧憬とともに、合わせ鏡のように祇園や舞妓が「京都らしさ」の表象となることには、文学・美術・学術・映画など総合的な時代思潮があった。後半には、華やかな京都イメージの実態として、大衆社会状況下で全国一、芸娼妓の人口比が多い府県であった京都の売買春観光や遊廓の立地について明らかにする。また娼妓の性病快癒や年季明けへの願いに向き合う、民衆宗教・金光教の布教に迫る。民衆史の方法として、京都や姫路の教師が娼妓の悩み・願いを書き留めた「祈念帳」を分析する。</p>											
【到達目標】											
<p>注のある形式の論文が作成できる。「京都らしさ」の近代と遊廓・花街」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 明治維新と京都</li> <li>・ 1883年の岩倉具視の「京都皇宮保存に関する意見書」と「伝統文化」</li> <li>・ 1895年の平安遷都千百年記念祭と平安時代</li> <li>・ 1907年、与謝野寛・木下杢太郎・北原白秋・吉井勇『五足の靴』</li> <li>・ 1917年、入江波光による延命寺「キリシタン墓碑」の発見</li> <li>・ 1920年、茨木・千提寺・ザビエル画像の発見</li> <li>・ 大正期、南蛮ブームと南蛮文化研究</li> <li>・ 「祇園もの」の文学</li> <li>・ 鴨川・東山の周縁性 性・差別・死</li> <li>・ 近代京都の花街・遊廓</li> <li>・ 大衆社会と売買春の盛行</li> <li>・ 民衆宗教としての金光教</li> <li>・ 金光教と歌舞伎・映画（マキノ省三・尾上松之助・中村鴈治郎ら）</li> <li>・ 金光教と遊廓・花街布教</li> <li>・ 民衆の肉声に迫る「祈念帳」の史料性</li> </ul> <p>以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。</p>											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。レポート作成について指導する。授業で指示。平常点も加味する（5パーセント以下）。100点満点。

**【教科書】**

プリントを配布する。

**【参考書等】**

（参考書）

高木博志 『近代天皇制と古都』（岩波書店、2006年）

高木博志ほか 『京都の歴史を歩く』（岩波書店、2016年）

**【授業外学修（予習・復習）等】**

「「京都らしさ」の近代と遊廓・花街」に関わる巡見を希望者とする。

**（その他（オフィスアワー等））**

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系23

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 高木 博志			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代天皇制と伝統文化									
【授業の概要・目的】											
<p>「近代天皇制と伝統文化」と題する本講義においては、近代国民国家とともに成立した近代天皇制（天皇をいただく国家の制度）が、同時に、前近代以来の文化を再構築した「伝統文化」を不可欠としたことを論じる。</p> <p>ここでいう「伝統文化」とは、前近代に起原しながらも、近代において欧米/中国との関係性において形成されてきたものである。大嘗祭・陵墓・国花としての桜・古社寺・文化財・古都・郷土愛などを俎上に上げる。また近代天皇制の伝統文化によって、第一次世界大戦後に先進国のなかで少数となった君主制を存続できる大きな原因となったこと、20世紀に地方城下町では藩主に帰依した地方の郷土愛が天皇を重んじる愛国心に包摂されそれが社会の大きな基盤となったこと、そして天皇制における「伝統文化」が極めて現代的な政治課題であること、を論じる。近代天皇制の特質として、記紀神話に基づく、天照大神の血統に代々の天皇が存在する神学についても明らかにする。</p>											
【到達目標】											
注のある形式の論文が作成できる。「近代天皇制と伝統文化」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・近代天皇制と「史実と神話」</li> <li>・19世紀の大嘗祭</li> <li>・20世紀の大嘗祭</li> <li>・19世紀の陵墓</li> <li>・20世紀の陵墓</li> <li>・伝統文化の創造と近代天皇制</li> <li>・皇室の神仏分離と泉涌寺</li> <li>・近代皇室の仏教信仰</li> <li>・奈良女高師の修学旅行と奈良・京都</li> <li>・奈良女高師の修学旅行と伊勢・東京</li> <li>・桜の近代 弘前・京都</li> <li>・桜の近代 帝国</li> <li>・郷土愛と愛国心をつなぐもの</li> <li>・20世紀の日本の文化財保護と伝統文化</li> <li>・現地保存の歴史と課題</li> </ul>											
<p>以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。積み残した課題は翌年度に論じる。フィードバックについては授業中に指示する。</p>											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。レポート作成について指導する。授業で指示。平常点も加味する（5パーセント以下）。100点満点。

**【教科書】**

プリントを配布する。

**【参考書等】**

（参考書）

高木博志 『近代天皇制の文化史的研究 天皇就任儀礼・年中行事・文化財』（校倉書房、1997年）  
高木博志 『近代天皇制と古都』（岩波書店、2006年）

**【授業外学修（予習・復習）等】**

「近代天皇制と伝統文化」に関わる巡見を希望者で行う。

**（その他（オフィスアワー等））**

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系24

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 藤原 辰史			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		食と農の現代史									
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来を構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 食をめぐる研究の方法</li> <li>2 明治大正期の食</li> <li>3 アジア太平洋戦争までの食</li> <li>4 戦後の食</li> <li>5 牛乳の歴史学</li> <li>6 品種改良の歴史学</li> <li>7 フィードバック</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末にレポートを課す。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
<p>（参考書）</p> <p>以下の本に目を通しておくと、講義の理解が深まる。</p> <p>池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』</p> <p>藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』</p> <p>藤原辰史 『ナチスのキッチン』</p> <p>藤原辰史 『カブラの冬』</p>											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

ポール・ロバーツ 『食の終焉』  
藤原辰史 『給食の歴史』

( 関連URL )

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

**[授業外学修(予習・復習)等]**

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系25

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 藤原 辰史			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		食と農の現代史									
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、将来の食と農の構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 食糧戦争としての第一次世界大戦</li> <li>2 有機農業の歴史</li> <li>3 毒ガスと農薬の歴史</li> <li>4 トラクターの歴史</li> <li>5 戦時期の農村女性たち</li> <li>6 食糧戦争としての第二次世界大戦</li> <li>7 フィードバック</li> </ol>											
【履修要件】											
前期の授業を受講しているものとして授業を進める。											
【成績評価の方法・観点】											
講義の終わり頃に筆記試験を課す予定											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
<p>（参考書）</p> <p>以下の本に目を通しておくと、講義の理解が深まる。</p> <p>池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』</p> <p>藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』</p> <p>藤原辰史 『ナチスのキッチン』</p> <p>藤原辰史 『カブラの冬』</p>											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											



現代史学(特殊講義)(2)

ポール・ロバーツ 『食の終焉』  
藤原辰史 『給食の歴史』

( 関連URL )

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

**[授業外学修(予習・復習)等]**

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系26

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 村上 衛			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		モノからみる中国近代史									
【授業の概要・目的】											
<p>近年における中国の台頭は中国の経済成長が原因であり、中国経済の動向は中国の今後を決めるだろう。中国近代史も戦争や革命などに目を奪われがちであるが、実は中国経済の動向に大きく左右されてきた。本講義では、中国近代経済史上、重要な役割を果たした商品である茶・アヘン・米・羊毛・大豆の生産・流通およびそれが中国近代史に与えた影響について概説し、新たな視点から中国近代史を理解することを目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>中国の「伝統的」な経済の仕組みをふまえつつ、中国近代において重要な商品である茶・アヘン・米・羊毛・大豆がどのような地域で誰によって生産され、どのような人々の手を経て流通していたのかを把握する。そのうえで、これらの商品の貿易が中国経済のみならず、中国の政治外交・社会に与えた影響について理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 中国経済の仕組み</li> <li>3. 中国茶貿易の発展</li> <li>4. アジア間競争と中国茶の行方</li> <li>5. アヘン貿易の発展</li> <li>6. 外国アヘンと中国アヘン</li> <li>7. 禁煙運動とその後</li> <li>8. 清代中国の米流通</li> <li>9. 動乱と外国米</li> <li>10. 羊毛貿易の勃興</li> <li>11. 羊毛貿易の展開</li> <li>12. 清代大豆貿易の展開</li> <li>13. 満洲大豆貿易の発展と東北地域の変動</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. フィードバック</li> </ol>											
【履修要件】											
前期・後期ともに履修することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価：毎回行われる小テストによって評価する。											
----- 現代史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義) (2)

**[教科書]**

使用しない  
毎回レジュメを配布する。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系27

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 村上 衛			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		仲介者のつくる歴史 近代中国									
【授業の概要・目的】											
<p>グローバル化が進展したことによって、ビジネスの世界で仲介者の果たす役割は年々大きくなってきている。例えば、企業が海外のある地域の企業と提携する場合、現地の言語・習慣に通じ、信頼のおける有能な仲介者を確保しなければ、その事業は失敗に終わってしまう可能性が高い。新型コロナウイルスによって人間の移動が著しく制限されたことによって、様々なビジネスに支障が生じたため、仲介者の果たしてきた役割はあらためて注目されている。本講義はこうした仲介者の意義について、近代中国（19世紀中葉～20世紀中葉）の事例を中心に、中国経済の変容をふまえつつ考察する。同時に世界の他地域の仲介者と比較してみたい。</p>											
【到達目標】											
<p>開港場とそれ以外の地域（内地）を媒介するという近代中国における仲介者の役割を把握したうえで、前近代の中国や他地域の仲介者と比較してその特徴を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 明代商業の発展と牙行</li> <li>3. 東アジア海域交流と仲介者</li> <li>4. 明代後期～清代中期の海上貿易の展開と仲介者</li> <li>5. 外国人商人と買弁（1）</li> <li>6. 外国人商人と買弁（2）</li> <li>7. 苦力貿易の盛衰と客頭（1）</li> <li>8. 苦力貿易の盛衰と客頭（2）</li> <li>9. 開港場貿易の発展と行棧（1）</li> <li>10. 開港場貿易の発展と行棧（2）</li> <li>11. 工業化と日系企業のあり方：日系商社、在華紡</li> <li>12. 前近代東南アジア海域の仲介者</li> <li>13. 前近代地中海世界の仲介者</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. フィードバック</li> </ol>											
【履修要件】											
<p>前期・後期ともに履修することが望ましい。</p>											
----- 現代史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義) (2)

**[成績評価の方法・観点]**

平常点評価：毎回行われる小テストによって評価する。

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系28

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 小堀 聡			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		現代日本社会経済史									
【授業の概要・目的】											
第1次世界大戦以降における日本の社会経済史について、通史的な知見を提供することが目的である。非欧米諸国のなかでいち早く「経済大国」化すると同時に、深刻な公害や自然破壊を引き起こした日本の経験について理解を深めることは、現在の日本社会を長期的視点から探究する能力を高めると同時に、人類の持続可能性を模索することにも資するだろう。											
【到達目標】											
現代日本経済の諸特徴がどのような過程で形成されてきたのかを、総合的・俯瞰的に把握する能力を養う。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 . 日本経済史の概観</li> <li>2 . 第1次世界大戦とその影響</li> <li>3 . 不況下の成長：1920年代</li> <li>4 . 昭和恐慌と経済政策</li> <li>5 . 財閥と新興コンツェルン</li> <li>6 . 戦前期の労使関係</li> <li>7 . 侵略と開発</li> <li>8 . 「大東亜共栄圏」とその崩壊</li> <li>9 . 占領、復興、特需</li> <li>10 . 高度経済成長</li> <li>11 . 公害の諸相</li> <li>12 . 安定成長</li> <li>13 . 開発主義と企業社会</li> <li>14 . 長期停滞</li> <li>15 . フィードバック</li> </ol>											
受講者の関心等に応じて変更の場合あり。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
中間レポート（25%）+ 期末レポート（75%）によって評価する。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

レジュメを配布する。

**[参考書等]**

(参考書)

三和良一・三和元 『概説日本経済史近現代 第4版』(東京大学出版会、2021)

宮本又郎・阿部武司ほか 『日本経営史 新版 江戸時代から21世紀へ』(有斐閣、2007)

**[授業外学修(予習・復習)等]**

毎回の講義で関連文献・史料を紹介するので、それらを読み進めること。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系29

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 小堀 聡			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		東京湾からみる日本の近現代									
【授業の概要・目的】											
本講義の目的は、近現代日本の社会経済史を、東京湾という「地域」に注目しつつ追究することである。本講義では東京湾を、20世紀後半における世界経済の大変動である「東アジアの奇跡」の先駆と位置付けたうえで、その社会変動が人びとの生産・生活と自然環境とにどう影響したのかを、具体的に検討する。以上を通じて、地域社会の持続可能性を多角的・長期的な観点から考察する能力を養いたい。											
【到達目標】											
地域社会について、多角的・歴史的な視点から考察する能力を養う。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 世界史のなかの東京湾【2週】</li> <li>2 明治と東京湾【2週】</li> <li>3 工業地帯の形成 大正期から敗戦まで【3週】</li> <li>4 埋立競争の勃発 占領から1960年代初頭【2週】</li> <li>5 開発と異議申し立ての時代 ー1960～70年代【3週】</li> <li>6 グローバリゼーションと東京湾 ディズニーランド以降【2週】</li> <li>7 フィードバック【1週】</li> </ol>											
受講者の関心等に応じて変更の場合あり。											
【履修要件】											
前期の講義を履修していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
期末レポートによって評価する。											
【教科書】											
レジュメを配布する。											
【参考書等】											
<p>（参考書）</p> <p>小堀聡 『京急沿線の近現代史』（クロスカルチャー出版、2018）ISBN:9784908823459</p> <p>三浦茂一ほか 『千葉県の百年』（山川出版社、1990）ISBN:4634271206</p>											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											



現代史学(特殊講義)(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

講義内容のうち関心のあるテーマについて、さらに調査すること。また、関連する自治体史・社史などに積極的に目を通すこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系30

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大学文書館 教授 西山 伸			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「京都大学百二十五年史」を読む 2									
【授業の概要・目的】											
1897年に創立された京都大学は、2022年に創立百二十五周年を迎えた。その間、1947年までは京都帝国大学、2004年までは京都大学、以後は国立大学法人京都大学と位置づけを変化させながら研究教育活動を行ってきた。その軌跡を一次資料に基づいて考察することによって、近現代日本史・高等教育史のなかで京都大学がいかなる存在であったのかを検証することを本講義の目的とする。今年度は、戦後改革から現在までを対象とする。											
【到達目標】											
現代日本における高等教育の概要を把握し、一次資料に基づいて京都大学の歴史を理解する。合わせて日本現代史資料を読み込む能力を養う。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 戦後高等教育改革</li> <li>3 新制京都大学の発足</li> <li>4 京都大学における一般教育</li> <li>5 占領期の学生</li> <li>6 高度経済成長下の拡大</li> <li>7 京大紛争(1)</li> <li>8 京大紛争(2)</li> <li>9 諸問題への対応と学生生活</li> <li>10 教育・研究体制の再編</li> <li>11 大学改革(1)</li> <li>12 大学改革(2)</li> <li>13 国立大学法人京都大学の発足</li> <li>14 京都大学の現在</li> <li>15 まとめ(フィードバック)</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
毎回の授業終了時に提出するコメントとレポート試験により評価する。その割合はコメント30%、レポート70%とする。											
【教科書】											
使用しない											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

---

[参考書等]

(参考書)

京都大学百二十五年史編集委員会編 『京都大学百二十五年史』（京都大学学術出版会、2022年）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で提示する参考文献、一次資料の典拠などを各自調べること。

(その他（オフィスアワー等）)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系31

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学人間科学研究科 教授 藤目 ゆき			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		占領軍被害の研究									
【授業の概要・目的】											
<p>連合占領期は闇の深い時代である。占領期は戦争と軍国主義からの解放と民主化という明るい側面がしきりに強調され、日本占領こそ輝かしい「占領の成功モデル」だといった言説が今も流布されている。だが占領期は、連合占領軍が絶大な権力を行使し、その事故や犯罪のために市民が殺傷されてすら闇にられてしまう恐ろしい時代でもあった。本講義では、一九五〇年代後半におこなわれた調達庁労働組合による大規模調査資料をはじめ、長い年月埋もれてきた史料を用いて、占領軍人身被害の角度から占領史を再考する。</p>											
【到達目標】											
<p>(1)「8・15終戦」論や「占領の成功モデル」といった言説の虚構性を理解する。</p> <p>(2)占領初期から日本の非軍事化・民主化に背反し、日本をアジアの「反共防波堤」として再建する方向へ向かう統治が始まっていることを理解する。</p> <p>(3)朝鮮戦争期に日本が「国連軍」の基地となり、日本が戦域に入ったことによって各地に人身被害が発生していたことを理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
各1～3回で以下のテーマとそれに関連する事項について学びます（全15回）。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1．研究の意義と方法</li> <li>2．日本軍武器弾薬処理に伴う人身被害</li> <li>3．占領軍労務動員と労働災害死傷</li> <li>4．暴行・傷害・殺人</li> <li>5．軍事演習被害・朝鮮戦争被害</li> <li>6．占領軍人身被害補償運動の歴史的意義</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（コメントシートやミニ・レポートの提出、授業中のディスカッションへの積極的参加など）60点、期末レポート40点で評価する。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

藤目ゆき 『占領軍被害の研究』（六花出版、2021年）ISBN:ISBN978-4-86617-157-9  
授業中に配布するレジюмеと資料、スクリーンに映す資料に沿って授業を進めます。

**[参考書等]**

（参考書）

『占領軍による人身被害調査資料集 編集復刻版』（六花出版、2021年）  
その他の参考文献については、授業中に適宜指示します。

**[授業外学修（予習・復習）等]**

参考書も含めて、授業中に適宜指示します。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系32

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学経営学部 教授 石川 亮太			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		朝鮮近代の社会・経済									
【授業の概要・目的】											
<p>朝鮮近代史の主要な論点について経済・社会を中心として概説する。とくに注目したいのは前近代の朝鮮社会との連続性である。従来の研究では、開港後の朝鮮が対日貿易を通じて日本の資本主義な再生産構造の中に組み込まれていく過程に注目してきた。それは開港後の日朝関係を、植民地化に向かう直線的な道程として目的論的に捉える歴史観とも親和的であった。しかし朝鮮社会の側に視点を置いて考えてみると、開港後の対日関係に触発されたかに見える変化が、実はそれ以前からの長期的なトレンドのなかで理解すべきものである場合が多々あることに気づく。こうした見方に立って近年の研究成果を整理し通説的な見方を再検討したい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝鮮近代史の主要論点について学説史的な背景とともに理解できるようになる。</li> <li>・朝鮮近代の経済・社会について日本や中国とも比較しつつ理解できるようになる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の各項目について講述する。各項目には、受講者の理解の程度を確認しながら、【 】で指示した週数を充てる。各項目の講義の順序は固定したものではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて、講義担当者が適切に決める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. この講義の視座と問題意識【1週】</li> <li>2. 朝鮮後期の経済トレンドについての近年の議論【3週】</li> <li>3. 開港に伴う朝鮮経済の変化【3週】</li> <li>4. 植民地化に伴う朝鮮経済の変化(1) 農業と産米増殖計画【2週】</li> <li>5. 植民地化に伴う朝鮮経済の変化(2) 工業化【2週】</li> <li>5. アジア経済史における朝鮮の位置づけ【2週】</li> <li>5. まとめと総括【2週】</li> </ol> <p>フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>授業への積極的な参加に対する平常点(50パーセント)と学期末レポート(50パーセント)により評価する。</p>											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業中に指示する。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系33

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 KNAUDT, Till			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		20世紀日本技術社会史									
【授業の概要・目的】											
特殊講義の目的は、社会、政治、テクノロジーが相互に関連していることを学生に紹介することである。特に、社会変革のために技術がどのように考案されたか、また、政治思想や社会がどのように技術を構築したかに焦点を当てる。											
【到達目標】											
技術の社会史・思想史の基本をなす日本近代社会における資本主義構造の立場がどのように形成されたかを理解し、その視点から歴史を吟味し、考察することができるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回 オリエンテーション 第2回 現在の技術観 第3回～第4回 技術社会史の理論的基礎 第一部 帝国 第5回 鉄筋コンクリートと近代のアジア 第6回 情報通信と帝国 第7回 飛行機と戦争 第二部 戦後日本 第8回 鉄道と労働 第9回 家電と女性 第10回 車と家族 第三部 情報化社会の日本 第11回 エネルギーと環境 第12回 コンピュータと子供 第13回 ロボットと国民 第14回 まとめ 期末試験 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
討論への積極的な参加（10点）、報告（1回、40点）、試験（50点）により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											



現代史学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)

授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

毎週、課題論文を読んで授業の準備をする。多くは英語で行われるので、週に3時間程度は準備に必要である。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系34

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 KNAUDT, Till			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本の左翼のグローバルヒストリー									
【授業の概要・目的】											
日本の左翼は、社会変革の過程において、社会的・思想的な影響力を持つ存在であった。本講演では、20世紀の革命と反革命、帝国主義と脱植民地化、冷戦といったグローバルな文脈の中で、日本の左翼がどのように発展してきたかを概観することを目的としている。											
【到達目標】											
グローバルヒストリーの枠組みを使って、日本の左翼の政治の立場がどのように形成されたかを理解し、その視点から社会運動・思想史を吟味し、考察することができるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回 オリエンテーション 第2回 「レフト」というのは何か 第3回 ヨーロッパの資本主義と社会主義 第4回 ロシアの帝国と日本のアナキスト 第5回 帝大セツルメント 第6回 インターナショナルと日本の共産主義 第7回 帝国とレフト 第8回 脱植民地化と戦後のレフト 第9回 女性労働運動 第10回 国鉄労働組 第11回 ベ平連 第12回 1968の第三世界反帝国主義 第13回 日本のヒッピーとカリフォルニア 第14回 まとめ 期末試験 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
討論への積極的な参加(10点)、報告(1回、40点)、試験(50点)により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義) (2)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

毎週、課題論文を読んで授業の準備をする。多くは英語で行われるので、週に3時間程度は準備に必要である。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系35

科目ナンバリング		U-LET45 10062 SJ36									
授業科目名 <英訳>		基礎現代文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 松永 伸司 文学研究科 教授 喜多 千草 非常勤講師 白木 正俊 非常勤講師 鈴木 真奈 非常勤講師 TATARCZUK, Marcin Adam 非常勤講師 平岡 久代 非常勤講師 福田 耕佑			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語
題目		現代文化学への招待Ⅰ									
【授業の概要・目的】											
<p>現代文化学専攻の博士後期課程を修了した若手研究者が、自分たちの最新の研究成果をふまえて、基礎現代文化学系の学問についてわかりやすく講義します。この科目は2つの性格をもっています。</p> <p>ひとつ目は、現代文化学に関心をもつ1・2回生のための導入的な専門科目という性格です。多様な基礎現代文化学系の研究内容の一端を示すことで、基礎現代文化学系への理解を深めてもらい、1回生には、系分属選択の判断材料を、2回生には、専修選択の判断材料を提供することがその目的です。</p> <p>ふたつ目は、大学教員をめざす若手研究者のための教育実践の場であるということです。現代文化学専攻で学び、将来大学教員を志す研究者が、実際に学生に教えることを通して教育力を伸ばすことが目的となります。そのために毎回授業終了後に、授業について感想や意見を書いもらうアンケートを実施します。</p>											
【到達目標】											
<p>この科目は、基礎現代文化学系に関心をもっている学生に、多様性に富む基礎現代文化学系の学問内容の一端を提示することを目的としています。リレー講義を担当する若手の研究者は、最先端に近いところで研究をしています。そういった研究の新動向を知ることで、受講生が基礎現代文化学系に関心をもつようになり、専修分属を決める際の判断材料の材料となることが期待されます。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>初回の授業で簡単なガイダンスを行ったあと、下記のスケジュール・内容で5名の講師が各3回の授業を行います。</p> <p>第1～3回 日本のパーソナルコンピュータ史 (担当：鈴木真奈) 1970年以前の日本のコンピュータの歴史 マイコンブーム：1970年代後半からのマイコン・パソコンの歴史 日本語とコンピュータ：日本語ワードプロセッサ専用機を中心に</p> <p>第4～6回 近現代ギリシア意識の形成と文学の関係：ナショナリズムと言文一致運動 (担当：福田耕佑) 導入：ギリシア・ナショナリズムの背景：「メガリ・イデア」と言語問題</p>											
----- 基礎現代文化学系(ゼミナールⅠ)(2)へ続く -----											

## 基礎現代文化学系(ゼミナールⅠ)(2)

19世紀のギリシア文学とギリシア人意識の形成について：新アテネ派（80年世代）を中心に  
20世紀におけるギリシア文学のヨーロッパ化とギリシアの「脱亜入欧」

第7～9回 日本文化の形成史：特有文化の作られ方

（担当：マルチン・タタルチュック）

明治時代の京都と国風文化

20世紀における国風文化・物語・観光

現代京都と新たな文化の試み

第10～11回 日本近代都市における人と水の関係史：京都市を事例に

（担当：白木正俊）

近代社会における人と水の関係史

都市における利水事業・治水事業の展開

第12～14回 文化財移動と国際関係

（担当：平岡久代）

フェノロサと明治政府それぞれの欲望

文化財のある場所

文化財移動と広報文化外交

第15回 フィードバック

一部スケジュールが変更になる可能性があります。あらかじめご了承ください。

### 【履修要件】

授業は主として1・2回生を受講者に想定して行いますが、3・4回生の受講も可。

### 【成績評価の方法・観点】

授業への参加態度と試験によって総合的に成績を評価します。試験は、各授業担当者が与える課題についてレポートを提出していただきます。

#### 【配点】

平常点50%

試験（レポート）50%

#### 【平常点の評価基準】

毎回授業終了時に書いていただくリフレクションシートの提出実績によって評価します。

#### 【試験（レポート）の評価基準】

各講師の最後の授業で出されるレポート課題の提出実績および内容のクオリティによって評価します。分量は各400～800字程度になる予定です。

### 【教科書】

使用しない

基礎現代文化学系(ゼミナールⅠ)(3)

---

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業時に各担当者から課題が提示されることがあります。その指示にしたがってください。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。